

全米過熱のコップキラ逃亡劇

ハンターも驚いた懸賞金1億円

柔軟な顔だが、高い戦闘スキルを持つドーナー容疑者の市警時代と海軍時代（A.P.）



米国・カリフォルニアで警察官（33）に殺害されたとみられる事件で、逃亡を続ける容疑者にロス市警は、破格となる

1000万ドル（約9400万円）の懸賞金を設定。俳優のチャーリー・シーン（47）が、出頭を呼びかけるハリウッド映画さながらの逃亡劇になっている。

事件が起きたのは今月3日。州内の駐車場でロス市警元警部の娘とその婚約者の射殺体が見つかった。殺人容疑で指名手配されたのは、元ロス市警の警察官で5年前に上司を告発したが、逆に虚偽告発を理由に解雇されていたドーナー容疑者たった。

ドーナー容疑者はネット上に25歳にも及ぶ犯行声明を出し、「勤務中だろうと非番だろうとロス市警の制服を見たら攻撃を仕掛け」「私の無実が証明されれば、攻撃はやめる」と市警への恨み節を書き連ねていた。

ドーナー容疑者は市警のほかに海軍にも所属し、戦闘スキル

官など3人が、元ロス市警警察官のクリストファー・ドーナー

が高く、逃亡中の7日には警官との銃撃戦で、警察官計3人を銃撃し、うち1人を死亡させた。

市警は過去最高額となる100万ドルの懸賞金を出したほか、非公式で無人偵察機による空から探査も進めていることが判明した。

さらに事件はハリウッドにも飛び火。ドーナー容疑者が犯行声明で、好きなハリウッドスターの名前を挙げたことで、名指しされたチャーリーが「僕に電話をしてくれ。君と話がしたい」と呼びかけられ、10日にロスで行われたグラミー賞授賞式は襲撃を警戒し、物々しい警備態勢の中での開催となつた。

一方で全米の話題を独占する

大捕り物劇となつていていることに入っている証拠」と指摘する。

一方で全米の話題を独占する

大捕り物劇となつていていることに

は苦笑い。

一米国の事件は、逃亡犯も警察側も映画のヒーロー気分で、メディアに注目されたい願望が出るので劇場型になりやすい。

百人のバウンティーハンターが血眼になつて追つているので映画化されそうだ。

ンターライー（賞金稼ぎ）で、FBI連邦捜査局の荒木秀一氏は「仲間が殺されたコップキラー（警官殺し）の懸賞金は、高くなる傾向にあるが、20万ドル（約1900万円）でも高い部類で、100万ドルは異例。当局も気合が入っている証拠」と指摘する。

一方で全米の話題を独占する

大捕り物劇となつていていることに

は苦笑い。

一米国の事件は、逃亡犯も警察側も映画のヒーロー気分で、メ

ディアに注目されたい願望が出るので劇場型になりやすい。

百人のバウンティーハンターが血眼になつて追つているので映

画化されそうだ。